

# 闘病中の子を笑顔に

## 徳大病院で交流開始

### 県内腎臓病患者ら

県内の腎臓病患者らでつくるNPO法人県腎臓病協議会などが、徳島市の徳島大学病院で闘病中の子どもたちと紙芝居の上演などを通じた交流を始めた。同法人には幼いころから入院を繰り返しているメンバーもいて、「少しでも子どもたちの病气や治療の苦痛が和らいだら」との願いを込め活動を続ける。

活動しているのは、協議会青年部のほか徳島市市民活力開発センター、紙芝居ボランティア「おしゃべりくまさん」のメンバー計約10人。8、9月に1回ずつ徳大病院小児科病棟を訪問し、入院中の子どもたち約20人と紙芝居やバルーンアート作りを楽しんだ。病院には白血病や心臓病、腎臓病などの重病・



バルーンアートを作る県腎臓病協議会青年部のメンバー＝徳島市幸町3の市民活力開発センター

## 風船アートや紙芝居披露

難病を患う子どもが入院し、治療や長期入院によるストレスを感じているケースも多い。13歳から腎臓病を患う協議会の山下陽子さん(28)＝小松島市中田町池ノ内Ⅱが自らの体験を振り返り、子どもたちを元気づけようと紙芝居ボランティアのメンバーらに協力を呼び掛けた。

8月の第1回が子どもたちに好評だったため、保護者や看護師らの求めで第2回が実現。今後も継続したい考えで、次回の活動も徳大病院で12月中旬に予定している。山下さんは「子どもたちの笑顔が見られるとうれしい。楽しめる出し物をどんどん考えたい」と話している。

徳大病院以外にも希望があれば出向く。問い合わせは市民活力開発センター(電0888(611)0000)。

(吉松美和子)